



青葉山さんかく隊 NEWS LETTER vol.5

第4回ワークショップ「活動のイメージ図をつくろう」



日時・会場

日時：2025年8月9日(土) 14:00～16:30

会場：東北大学 災害科学国際研究所
多目的ホール

プログラム

1. はじめに
2. 前回のふりかえり
3. 話し合い「活動のイメージ図をつくろう」
4. 発表
5. おわりに

仙台市では、青葉山エリアに音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設を新しく整備する計画を進めています。

本施設の設計プロジェクトの一環として、施設の使い方、過ごし方、やってみたいアイデアなどを考える全4回の市民ワークショップが「青葉山さんかく隊」です。

第4回目は40名が参加。今回は、これまでのワークショップで出た意見の中から、実際にやってみたいと思う活動を選び、グループごとに具体的な活動の内容やイメージ図を考えました。

はじめに

はじめに、東北大学副学長・災害科学国際研究所の今村文彦氏よりご挨拶をいただきました。今村氏は、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の管理運営アドバイザーでもあります。



ご挨拶 - 東北大学 副学長・災害科学国際研究所 津波工学教授 今村文彦 氏

今回の会場である東北大学災害科学国際研究所は、東日本大震災の翌年に設立されました。

2015年には「第3回国連防災世界会議」が仙台で開催され、国内外から延べ15万人の方が参加しました。東日本大震災の状況を共有し、世界各地で起きる災害に対してどのような対策や協力をしたらよいか議論をしました。その際に採択された「仙台防災枠組」は、パリ協定、SDGs

と並ぶ世界三大アジェンダのひとつとされています。

7月30日にカムチャッカ半島で地震が起き、日本でも津波が観測されました。このように、災害はいつどこで起きるか分かりません。そこで、青葉山さんかく隊の皆さんにも、日常と非日常をつなぐ、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の活用について、さまざまなアイデアを考えていただきたいと思います。

話し合い「活動のイメージ図をつくろう」

まず、これまでのワークショップで出た意見の中から、自分が実際に取り組みたいと思う活動を選び、選んだ活動が同じ人・近い人同士でグループを作りました。そして、活動の「具体的な内容（目に浮かぶ風景）」「どんな人が、どのくらい参加しているか」「いつ・どこで

やるか」をグループで話し合い、活動の企画シートを作成しました。また、複合施設のパス図の上にイラストを描いたり、AIの画像生成を活用しながら、活動のイメージ図も作成しました。



暗闇を楽しむ / お月見 / するめ天旗

【暗闇を楽しむ / お月見】満月の日に、お月見やヨガ、読書会など、誰かが何かをやっている状態にしたい。屋外で自由に過ごせるスペースをつくり、その場にいる人と団欒できる空間にする。また、仙台の夜景を借景とし、五感で楽しめるイベントを実施する。

【するめ天旗】仙台市内で風をあげられる場所が無くなっている。広い空の下で仙台伝統風をあげたい。



景色とドリンクを楽しみながら コンサート

景色好き、音楽好き、イベント好きもそれぞれ楽しめる欲張りな企画にしたい。季節に応じて屋内や屋外など、開催場所を変えていく。施設の1階で開催する時はキッチンカーが来たり、4階で開催する時はドローンで食べ物などを運ぶ。

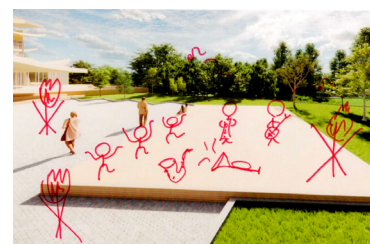
クラシック、ロック、K-POP などバラエティ豊かな音楽が演奏されている。



脱出ゲーム / ヒラヒラの活用 (盆踊り・音楽の練習)

【脱出ゲーム】ワクワク・ドキドキする建築を体験できる脱出ゲーム。大ホールがスタートとゴールになっており、開始時と終了時で大ホールのレイアウトが変わっている。バックヤードツアーをゲーム化し、大ホール全体を楽しむことができる。

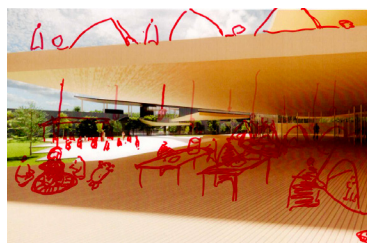
【ヒラヒラの活用】新しい盆踊りを考えて踊ったり、ヒラヒラの上でプロが練習することで、プロと施設周辺の高校生との出会いの場となる。



防災キャンプ / 屋上菜園

【防災キャンプ】実際に災害が起きたことを想定して、青葉山に集まって防災キャンプを行う。海外の方、障がい者の方にも参加してもらう。軒下のテラスに TENT を張り、焚き火や調理できる場をつくる。仙台市や自衛隊と協力して、年に一度備品がちゃんと使えるか確認する。

【屋上菜園】防災キャンプの食材調達の間も兼ねる。施設を管理する方や一般の方、未経験の方も楽しめるものにしたい。



実家のようなみんなの台所 / リーガルウォール

【みんなの台所】勝手に入って料理ができる実家のような台所。1人でも、数十人でもご飯を食べることができる。高齢の方から料理を教えてもらえる場にもしたい。食材のストックがあり、普段も災害時も使用できる。

【リーガルウォール】仙台にもさまざまなジャンルの音楽やダンスのイベントがあるので、グラフィティを描けるリーガルウォールがあると、若者がさらに多様な表現ができるのではと思う。



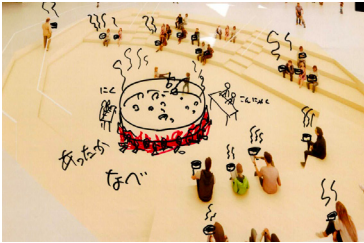
生演奏で借り花火 (音楽×花火)

生演奏と花火の共演を実現したい。演奏者も観客も、花火の方向を見ている状態にし、全員が楽しめるイベントにする。100人規模の吹奏楽など、花火に負けない迫力がある演奏と花火を楽しむといいのではと考えた。また、仙台七夕などの花火大会とあわせて開催をすることで、予算が大きくなりすぎず開催を実現することができるのではないか。



オールシーズンで防災キャンプ

災害はいつ起こるか分からないからこそ、防災キャンプもオールシーズンでやりたい。1泊2日で、考える・学ぶ・楽しむことを大切にする。リュック1つに収まる範囲で、電気が使えない想定で持ち物を考えて持ってきてもらう。1日目は料理やレクリエーション、寝床の準備を協力して行いながら、夜は焚き火とバーベキューを楽しむ。2日目は周辺の川へ行き、河原でご飯を食べるなどして過ごす。



バックヤードツアー / 芋煮会 / 流し温麺

【バックヤードツアー】施設見学に加えて、照明や音響など裏方の人たちの技術や知識を聞くことができるツアー。施設が好きな市民ボランティアにガイドをしてもらう。

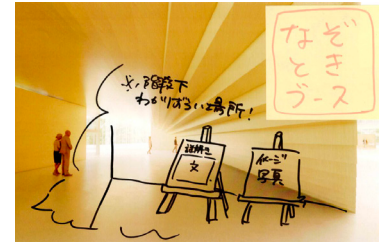
【芋煮会】芋煮をすることで、災害時に役立つ火起こしや調理スキルを身につける。芋煮＝防災教育と売り出したい。

【流し温麺】温麺で宮城らしさを出す。屋根の上から流し、空飛ぶ流し温麺を楽しむ。



リアル体験型防災謎解きゲーム

地震・津波・豪雨の3つのコースから1つを選び、アイテム（防災グッズ）を使って謎解きをする。写真やVRアプリを使い、震災当時の状況を再現。謎解きゲームとは別に、防災に関する講座を開催したい。脱出ゲームに関心がある若者を中心に、老若男女が楽しめるものにする。ゲームを通して施設全体を巡ることで、施設のことを深く知り、災害時の動き方もイメージすることができるのではと考えた。



おわりに - 仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室 佐藤陽子 震災メモリアル事業担当課長

このワークショップには、定員を超える応募をいただきました。多くの方に関心をもっていただき、嬉しく思います。また、ワークショップの早い段階で、参加者の皆さんから「文化芸術も災害文化もつながっているよね」という話が出ており、勇気をもらいました。

全4回のワークショップを通して、さまざまな年齢や職業の方々の交流が生まれ、楽しい時間を一緒に過ごしているようすを目の当たりにし、このような風景が日常的に展開されているのが、この複合施設なのかもしれないというイメージを持つことができました。プロのコンサートを聴きに来たり、皆さんが今日考えたような企画を一步

踏み出してやってみる中で、活動の幅や仲間の輪が広がっていく場になると思います。皆さんの意見を実現できるように、藤本壮介建築設計事務所と取り組んでいきたいと思っています。

ワークショップは今回で最後となりますが、つながりを断ち切ることなく、この場にいる皆さんが将来、複合施設のプレイヤー、ユーザー、最初のファンになっていただきたいです。複合施設の完成はまだ先になりますが、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。